

平成22年5月31日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2008～2009  
 課題番号：20730492  
 研究課題名（和文）学習支援者の専門性と力量形成に関する研究  
 ー成人学習支援の視点から  
 研究課題名（英文）A study of profession and professional development of  
 adult educators  
 研究代表者  
 倉持 伸江（KURAMOCHI NOBUE）  
 東京学芸大学・教育学部・講師  
 研究者番号：60401593

## 研究成果の概要（和文）：

地域や職場において人々の成長や学び合いを支える人々を、それぞれがおかれている多様な状況や領域を横断して、実態として成人の学習を支援する実践に取り組むという視点から、成人学習支援者としてとらえることができる。成人学習支援者は、成人学習者の特性に配慮した支援を行い、学びあうコミュニティのコーディネーターとしての役割を担う。成人学習支援者の実践を展開する能力の開発もまた成人の学習であり、支援者自身の実践の省察を中心として取り組まれ、学びあうコミュニティに支えられて展開されていく。

## 研究成果の概要（英文）：

Though adult educators are increasing in number in various field in fact, there are few who see what they are concerned with as "adult leaning", and consider themselves as "adult educators." Even if the situation and the field are different, adult educators may support characteristics of adult learners and coordinate learning community in practice. Adult educators become reflective practitioner who reflect in and on their practices for professional development in their learning community as adult learners.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：生涯学習、社会教育

## 1. 研究開始当初の背景

生活の向上や職業能力の開発、社会生活で直面する課題の解決などを目的に、成人の学びがフォーマル・ノンフォーマルを問わず

まざまな状況で活発に展開してきている現代において、成人の学習プロセスを支援する役割も、多様な職種、領域、立場の人々が担うようになってきている実態がある。しかし、このように成人学習の領域が実態として広

がってきている一方で、これらの活動を「成人の学習」として、また活動を支える人々を「成人学習支援者」として横断的にとらえるという視点は少ない。

国外、おもに欧米では成人の学習活動の指導、助言、支援、組織化のいずれかに関わる者のことを成人教育者として包括的にとらえる研究が進められており、高等教育機関においては専門の養成部門もある。特に北米の成人学習支援者の役割と力量形成をめぐる研究は著しいものがある。

日本では、教育基本法改正とそれに伴う社会教育法改正に向けた動きの中で、社会教育主事をはじめとした社会教育・生涯学習関係職員や支援者の役割が重要な検討課題となっている。主な研究として、『成人の学習』（日本社会教育学会編、東洋館出版社、2004年）や『講座 現代社会教育の理論Ⅲ 成人の学習と生涯学習の組織化』（日本社会教育学会編、東洋館出版社、2004年）がある。

これまでの研究成果として、北米においては多様な領域の成人の学習を支援する人々を成人教育者としてとらえ、その専門性が論じられていることがわかった。日本においても社会人の学習者は増えてきており、生涯学習の提供機会も多様化してきている中で、「成人の学習を支援する」という視点でその専門性と養成を考える必要がある。

また、成人学習支援者の実践的な力量形成のために、省察について文献をもとに研究を展開してきた。実践の省察による学習支援者の力量形成という視点から、従来の力量形成の課題、D. ショーンが提起した「省察的実践者」のモデルの理論的検討、具体的なプロセスについての事例検討などを行っている。中でも保健師の自主学習会に着目し、成人である住民の健康学習を支援する専門性を保健師がどのように身につけているのかを検討している。

こうした研究の成果から、学習支援の状況や教える分野・内容は違っても、成人の学習プロセスを組織し支援する実践的な力とは何か、その力を形成するために実践の省察にどのように取り組めばいいのか、実践の省察による力量形成を可能にする条件は何かということについて、日本の現状にそって、具体的に明示することが力量形成のビジョンを描くために求められると考え、本研究を着想した。

## 2. 研究の目的

地域・職場のコミュニティをにおいて成人の学習を援助する学習支援者の専門性と力量形成に関して理論的・実践的研究を行い、具体的な提起につなげることを主たる目的とする。本研究は次の3つの研究課題から成

っている。

### (1) 成人学習支援者とは誰か：ニーズの掘り起こし

一般的に学習活動における教育者の専門性は、特定の内容領域の専門的な知識や技術にあると考えられているが、学習支援の状況や教える分野・内容は違っても「成人の学習を支援する」という共通の専門性で多様な領域における学習支援者をとらえる意味があるのではないかと。

そこで、日本における成人学習者の増加と多様化をふまえて、社会教育職員のほか、看護師、栄養士、保健師、企業における人材育成・能力開発担当者など、成人学習支援者としてとらえられる職業、領域、人々を具体的に示し、それぞれの分野で成人学習支援者としての専門性が求められていることを、その領域に関わる文献や実践者の声から明らかにする。

### (2) 成人学習支援のための専門性とは何か

：専門性の内実

成人の学習を支援する実践に関わる人々について、教える分野・内容、教科領域における専門性というよりは、個人あるいは地域・職場のコミュニティの成長をめざして、成人学習者の主体的な学習とその学習プロセスを支援する、ファシリテーターやコーディネーターの役割が専門性として共通にあるのではないかと。

専門的知識を教える専門性ではなく、成人学習者の主体的な学習をプロセスを通じて支援する専門性について、具体的な力量を社会教育実践・研究の蓄積および各領域の実践者のヒアリングにより抽出し、内実を整理・分類する。

### (3) 実践的な力量形成のために何が必要か

：学習支援者の学びの組織化

成人の学習を支援する実践的な力量を身につけるためには、新しい知識や技術の習得ではなく、あるいはそれらに加えて、自らの実践の省察に取り組むこと、さらにはその省察を協働で行うことのできる組織づくりが鍵となるのではないかと。

実践の省察による力量形成を具体的に展開するために必要な方法・カリキュラム・システム・組織について、北米での省察的実践論に関する理論的整理および具体的な取り組みの事例検討を行うと同時に、国内での現時点での先進的な取り組みについて調査し、実践的な力量形成のために何が必要か、構成要素を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) 成人学習支援者とは誰か

社会教育・生涯学習に関わる施設職員や生涯学習関連の行政職員、学校教員、健康に関わる職である看護師、保健師、栄養士、企業・ビジネスの領域における人材開発・企業内教育担当者などを成人学習支援者としてとらえるために、それぞれの役割や実践についての文献・資料を収集し、整理する作業に取り組む。

(2) 成人学習支援のための専門性とは何か

成人学習支援のための専門性の内実について研究された理論研究および事例研究について国内外の文献資料を収集し、成人学習支援者にあたる人々の専門性は何であるといえるか、その専門性を形づくるためにどのようなことに取り組むのかを読み取り、整理、検討する。

また社会教育、市民活動、ビジネス、保健、福祉、看護、保育などの領域において学習支援者としての役割を果たしている実践者にヒアリングし、成人学習支援のための専門性を抽出、理論研究とあわせて仮説の検証を行う。

(3) 実践的な力量形成のために何が必要か

省察的実践論について理論的な概念の理解を深めることをねらいとし、国外、特に欧米における省察の概念をめぐる議論を文献資料から検討する。D. ショーンの著書「Educating the Reflective Practitioner」(1987)などを中心に、省察による力量形成についての基礎となる考え方およびその後の展開について整理する。

省察による力量形成が十分に効果を発揮するためには、個人の取り組みだけではなくその学習支援者の属する組織のあり方や力量形成のシステムも問い直し、変容させていく必要があることから、実践コミュニティ (community of practice) の概念に着目し、E. ウェンガーの議論を中心に省察による力量形成を可能にする要素について理論的検討を行い、「省察」との関係をもとめる。また、省察の概念を成人学習論、学習組織論との関連で理論的に検討し、意味づけをすることによって、実践の省察の具体的展開を可能にする後盾とするために、北アメリカにおける professional development と成人教育学との関連を、研究と実践両面から把握し、情報を収集する。

同時に、実際の省察による力量形成の展開を探るために、先進的な事例、特に大学院レベルでの実践の省察への取り組み、高度職業人養成としての成人学習支援者

養成に取り組んでいる、またはそのためのプランをもっている福井大学、宇都宮大学などのカリキュラムとシステムを調査する。特に附属小学校・中学校の教師や看護学校の教員、生涯学習関連職員などが省察によって学習し、自らや相互の能力開発に取り組んでいる福井大学教育地域科学部の事例をとりあげ、省察による力量形成がどのようなプロセスを経て展開されているのか、それを実現させている要素はなにかについて、記録の読み取り、当事者への聞き取りによって明らかにし、省察による力量形成を展開するための要素を検証したい。

#### 4. 研究成果

(1) 成人学習支援者とは誰か

これまで一般的に学習活動における教育者の専門性は、特定の内容領域にあると考えられ、それぞれの領域でその役割や力量形成が論じられ、取り組まれてきたが、本研究では「成人学習者」という存在に注目し、「成人学習者の特性を活かした支援」という視点からさまざまな領域の専門職を横断的にとらえた。

欧米の成人教育研究における成人学習支援者の対象について北アメリカ（アメリカ、カナダ）におけるM. ノールズ、P. クラントン、J. アップスなどの成人教育学研究者の先行研究と、イギリス、ドイツにおける成人教育職員の範囲について検討したところ、「成人の学習を援助する何らかの責任のある人」としてフォーマル・ノンフォーマル問わず多様な領域、職業にわたる教員、職員、ボランティアなどの関係者があげられ、欧米では成人教育成立の歴史から、内容領域を教える役割である教育者や講師にあたる人びとに関心が向けられてきた背景があるものの、成人学習支援者の範囲がより広くとらえられていることがわかった。

わが国において、成人学習の支援にあたる職としてその役割を論じられてきたのは、社会教育主事を中心とする社会教育関連職員である。1980年代以降、生涯学習概念の浸透と共に、社会教育・生涯学習に関わる学習支援者、職員、指導者の範囲も次第に広く考えられるようになってきているが、成人の学習を支援するという視点から、職員、講師、支援者、指導者といった人びとを包括的にとらえる視点はまだまだあまり見られない。

そこで、わが国において、どのような領域、職種の人々が実態として成人の学習支援に関わり、成人学習支援者としてとらえることができるかについて、文献およびヒアリングによって検討し、整理を試みたのが次のものである。

- (1) 社会教育・生涯学習に関する学習支援者
  - ①社会教育・生涯学習部局や施設の職
  - ②生涯学習関連の行政職員
  - ③社会教育・生涯学習に関する教育者
  - ④生涯学習関連の民間営利組織・個人
  - ⑤生涯学習関連の非営利組織・個人
- (2) 高等教育機関における教員・職員
- (3) 健康に関する専門職
- (4) ビジネス・企業において人材育成に関わる人びと
- (5) 能力開発担当者

ここで取り上げた職業や立場、役割は現在成人学習の視点から検討がなされている、あるいはなされようとしている状況を整理したものであり、成人学習の領域は潜在的にまだ広がりがあると考えられる。これまで実態として成人学習者を支援する実践に取り組む成人学習支援者を位置づけ、とらえなおす必要がある。

#### (2) 成人学習支援のための専門性とは何か

わが国において、成人期以降の生涯学習のニーズが近年ますます高まっている。また住民相互が学習や地域での活動を通して、自らの生活を改善し、豊かな地域社会づくりに取り組んでいる。職場においても、多様な職種でチームで直面する課題に取り組み、解決することを通して実践的な能力を開発している。成人学習者層の拡大に伴ってそれに対応する学習支援者の役割が多様な分野・領域で注目を集めている。本研究では教える学問領域の知識や技術といった内容の専門性ではなく、これまで重要視されてこなかった成人学習者の特性を活かした学習支援という専門性に着目して検討を進めた。

子どもの学習者と異なる成人学習者の特性として特に重視されるのが、成人学習者の経験と自己決定性である。成人学習者は一人ひとり異なる内容や程度のこれまでの人生の日々の生活で得た経験をもっており、学習活動に蓄積された経験やその背景をもつて参加する。成人の経験を尊重し、学習資源として利用すると同時に、経験がその人のものの見方を形成し、変化しづらい構造であることに成人学習支援者は配慮する必要がある。また、成人教育の分野では、伝統的な他者、つまり教師決定型の学習形式ではなく、自己決定的、主体的、自律的な学習スタイルが中心概念として位置づけられてきた。学習プロセスを通じて、自己決定的に学習に取り組めるよう支援することもまた、成人学習支援者の重要な役割である。これらの特性の支援は、特に成人学習者が実生活上の課題解決をめざす場合、個別対応というよりも、成人が属する地域や職場などのチーム、集団、サークル、グ

ループ、組織における相互主体的な学習を支えることにほかならない。このような視点でとらえると、成人学習支援者は学び合うコミュニティのコーディネーターとしての役割が求められることになる。

こうした実践において成人学習の取り組みに関わる専門性とは、ある一般的・不変的で専門特化した知識において成り立つ伝統的なものではなく、成人の学習を支援するという実践に基礎をおく専門性である。道具的知識や技術ではなく、実践知と行為の中の省察に専門性をとらえる考え方は、D. ショーンによる省察的実践論の提起をうけ、成人教育学の中でも重要視されてきている。

#### (3) 実践的な力量形成のために何が必要か

成人学習支援者の実践的な能力の開発は、支援者自身の実践の省察を中心として取り組まれ展開されていくという省察の考え方は、D. ショーンの省察的実践論によって提起されたものである。複雑で多様な価値が内包されており不確実であいまいな実践において、専門知識や理論・技術を実践に適用して問題解決をはかる「技術的熟達者」モデルでは限界があり、実践の中の知識生成に重点を置き、行為の中の省察に取り組む省察的実践者モデルに転換する必要がある。ショーンが1980年代に発表したThe Reflective Practitioner（邦訳『省察的実践とは何か』）において提起した「省察的実践（reflective practice）」の概念は、専門職の力量形成を考える新たなモデルとして注目を浴び、医療、建築、福祉、教育、経済など幅広い領域で専門職像の転換と専門職教育改革に影響を及ぼしており、今なお研究がすすめられている。

また、省察による力量形成が十分に効果を発揮するためには、個人の取り組みだけではなくその学習支援者の属する組織のあり方や力量形成のシステムも問い直し、変容させていく必要がある。E. ウェンガーの論じる実践コミュニティ（community of practice）の概念は、実践者の省察をパブリックな場での協働探求に結びつけ、実践と省察のコミュニティをいかにつちかっているのか、そのシステムについて提起するものである。成人学習支援者は、成人学習者の学び合うコミュニティのコーディネーターであると同時に、自らも実践の省察を通して力量形成に取り組む成人学習者として、学び合うコミュニティを形成している。ウェンガーはこれを「グローバル・コミュニティのフラクタル構造」と呼んでいるが、こうした構造が成人学習支援者の専門性を高めていくために有効だとかんがえられる。

これらの視点は、専門職大学院、高度職業人養成をめぐる議論に直結するものである。

従来の若者を対象に設計された教授スタイルを成人である現職者にそのまま適用すると、学習者と教育者の双方に混乱と不満が生じる危険があるが、現職者に適した授業方法や評価のあり方について再検討するのに成人学習支援という視点は不可欠な研究である。さらに、広い意味での学習支援に関わる対人援助職といわれる専門職にとっては実践力形成が喫緊の課題であるが、実践の省察による力量形成、学び合うコミュニティの考え方は実践知を重視し、自分自身の実践や行動を仲間とともに変えていくことができるだろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 倉持伸江、翻訳：ビビアン W. モット「職場での専門知の開発」、お茶の水女子大学生涯学習実践研究、査読無、8巻、2010、印刷中
- ② 倉持伸江、成人学習支援者に関する一考察—さまざまな状況における学習支援者—、東京学芸大学紀要 総合教育科学系、査読無、60巻、2009、19-26頁

[学会発表] (計3件)

- ① 倉持伸江、オーバービュー：関連諸領域における研究の動向、日本社会教育学会第56回研究大会、2009.9.20、大東文化大学
- ② 倉持伸江、学びあうコミュニティを支える成人学習支援者の専門性と力量形成、日本社会教育学会第55回研究大会、2008.9.20、和歌山大学
- ③ 倉持伸江、省察的実践の展開過程と開かれた協働研究のサイクル、日本社会教育学会六月集会、2008.6.8、日本社会事業大学

[図書] (計1件)

日本社会教育学会編、東洋館出版社、学びあうコミュニティを培う 社会教育が提案する新しい専門職像、2009、209-221頁 (宮崎隆志、倉持伸江、三輪建二：共同執筆)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

倉持 伸江 (KURAMOCHI NOBUE)  
東京学芸大学・教育学部・講師  
研究者番号：60401593

### 2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：